

# 出合いを作ろう！

【中学校】

## 対象

中学校（1年生） 国語 50分

## ねらい

「未来をひらく微生物」の発展学習として、環境問題について関心を持ち、環境に関することが書かれた様々な本に興味をもつことができる。

## 作品名

- ・「小泉武夫 微生物が未来を救う（「課外授業ようこそ先輩）」  
（NHK「課外授業ようこそ先輩」制作グループ 編 風土社）
- ・「カビの不思議」（椿 啓介 著・筑摩書房）
- ・「地球は今 第6巻身近な環境問題」（高木善之 監修 栄光教育文化研究所）
- ・「シリーズ国連 第5巻環境へのとりくみ」（安井 司・半田 博 著 リブリオ出版）
- ・「空気はだれのもの？」「森が海をつくる」「ジェイクと海のなかまたち」  
（葉 祥明 絵・文 自由国民社）
- ・「傷だらけの神々の山 - 立山、白山の自然は今」（近藤泰年 著 山と溪谷社）
- ・「環境を守る仕事 なり方ガイド」（金谷敏博 編 学習研究所）
- ・「自然保護レンジャーになるには」（自然保護レンジャー研究会 編 ペリかん社）
- ・「かべにプリンをうちつける」（クリスティーネ・ストリガ - 作 平野卿子 訳 ほるぷ出版）
- ・「空色 sora-iro」（坂巻 央 著 文芸社）
- ・「H O O T ホー」（カール・ハイアセン 著 千葉茂樹 訳 理論社）

## 学習活動

活動の流れ	留意点
1 「未来をひらく微生物」の内容を確認する。	・微生物は環境問題を解決するのに大いに役立っていることや、微生物の大切さを確認する。
2 次の3点のことを交流する。 どんな微生物があるのか。 あったらいい微生物にはどんなものがあるか。 どんな環境問題があるのか。	・交流することで、環境問題についての意識付けをする。 ・微生物の一つ、カビに関する本（「カビの不思議」）を紹介する。 ・環境問題に関する本（「身近な環境問題」「環境へのとりくみ」）を紹介する。
3 小泉武夫さん（微生物学者）のことや、「微生物が未来をひらく」という本の一部を聞く。	・「未来をひらく微生物」と同じ「微生物」に関することが書かれていることを話し、興味付けを行なう。
4 ブックトークのテーマ「環境（問題）」と、課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">ブックトークを聞いて、自分の読みたい本を決めよう。</div>	・読む本の決定のために、参考としてブックトークを行なうとよいことを補足する。
5 「空気はだれのもの？」（絵本）の読み聞かせを聞く。	・地球環境に関する絵本があることを知らせるために、3部作のうちの1作品を、絵を見せながら読む。
6 「傷だらけの神々の山」という本の紹介を聞く。	・実際に近隣の山々で、自然破壊が進んでいることに気付かせるために、内容を紹介する。
7 「環境を守る仕事」「自然保護レンジャーになるには」という本の紹介を聞き、環境を守る仕事があることを知る。	・環境を守るために、様々な人が様々な仕事に取り組んでいることに気付かせるために、いくつかの職種やその内容を紹介する。
8 環境問題に関するフィクションの3作品の紹介を聞く。	・物語の中にも環境問題に関する本があることに気づくようにするために、粗筋を紹介する。
9 ブックトークを聞いて、読みたい本を一冊選び、その理由をまとめる。	・環境に関する本を読もうとする意欲をもたせるために、選んだ理由をグループで交流する。

# 出会いを作ろう！

【中学校】

対象

中学校（２年生） 国語 ５０分

ねらい

「盆土産」の発展学習として、家族のきずなについて関心を持ち、家族に関することが書かれた様々な本に興味をもつことができる。

作品名

- ・「星野道夫の仕事３ - 生きものたちの宇宙」〔星野道夫 朝日新聞社〕
- ・「親と子の写真絵本 ウリボウなかよしいかぞく」  
〔写真／福田幸広 文／結城モイラ ポプラ社〕
- ・「キッドナップ・ツアー」〔角田光代 理論社〕 「日曜日の夕刊」〔重松清 新潮社〕
- ・「佐賀のがばいばあちゃん」〔島田洋七 徳間書店〕
- ・「西の魔女が死んだ」〔梨木香歩 新潮社〕
- ・「ちいさな天使とデンジャラス・パイ」〔ジョーダン・ソーネンブリック 主婦の友社〕

学習活動

活動の流れ	留意点
<p>1 「盆土産」での学習内容を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主人公は、“えびフライ”きっかけにして父親への気持ちが変わっていった。</li> <li>・主人公にとって、家族は大切なもの。家族の絆を考えさせられた。</li> </ul> <p>2 課題をつかむ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材「盆土産」を学習した際のノートやプリント等をもとに主題を振り返らせる。</li> </ul>
<p>「家族」についてのブックトークを聞き、読みたい本を見つけよう</p>	
<p>3 「家族」についてのブックトークを聞く。（別文書参照）</p> <p>《動物の家族についての本》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『星野道夫の仕事３ - 生きものたちの宇宙』を見て、星野道夫さん（アラスカの野生生物と自然、人々を撮り続けた写真家）であることを知る。クマの親子の温かい姿を撮った写真を何枚か見る。</li> <li>・『親と子の写真絵本 ウリボウなかよしいかぞく』の読み聞かせを聞く。</li> </ul> <p>《家族について見つめ直し、成長する主人公の物語》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『キッドナップ・ツアー』の主人公についての紹介と簡単なあらすじを聞く。</li> <li>・『日曜日の夕刊』の紹介を聞く。</li> </ul> <p>《家族からの言葉や姿に成長していく主人公の物語》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『佐賀のがばいばあちゃん』の主人公についての紹介と本の中のエピソードについて聞く。 “本当の優しさとは...”</li> <li>・『西の魔女が死んだ』の主人公についての紹介と本の中のエピソードについて聞く。 “...いちばん大切なのは、意志の力。自分で決める力。自分で決めたことをやり遂げる力です。...”</li> <li>・『ちいさな天使とデンジャラス・パイ』の紹介について聞く。 “変えられないことを思って苦しむより、変えられることを見つけて行動を起こしてみたらどうかしら？”</li> </ul> <p>4 読んでみたい本を選ぶ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「アラスカとの出会い」（星野道夫 光村書店『3年国語』）を参考にして話す。</li> <li>・動物の親子の温かい絆についてまとめ、動物の家族と人間の家族の共通点にふれ、次の作品の紹介へとつなげる。</li> <li>・母と子 父と子へと視点を広げさせる。</li> <li>・『日曜日の夕刊』は、12の短編小説からなることを話し、読書を苦手としている生徒にも読みやすいことを伝える。</li> <li>・祖母、そして兄弟のつながりについても紹介する。</li> <li>・ブックトークで紹介した本以外にも「家族」について書かれた本を集め、図書室に「家族コーナー」をつくっておく。</li> </ul>

## “ 家族 ” についてのブックトーク

この写真集『星野道夫の仕事3 - 生きものたちの宇宙』（朝日新聞社 星野道夫）を見てください。

この写真をとった星野道夫さんは、アラスカに住み、アラスカの野生生物と自然、人々を撮り続けた方です。この写真集には、アラスカに生息する動物の親子の写真がたくさん載っています。（クマの親子の写真を何枚か見せる）クマの親子の温かい関係が伝わってくるようですね。子グマを見つめる母グマの優しいまなざし。見ていると何だか、ほほえましくてホッとするような温かい気持ちになってきますね。動物の家族も人間の家族と同じですね。

それでは、もう一冊。動物の家族のお話です。

『親と子の写真絵本 ウリボウなかよしだいかぞく』（ポプラ社 福田幸広写真 結城モイラ文）を見てください。

ちょっと読んでみます。

次は、母と子の話ではなく、父と子の話です。

この『キッドナップ・ツアー』（理論社 角田光代）の主人公ハルはお父さんのことを「この男」と言い、だらしなくて、情けなくて、お金もないお父さんなんて...と思っているちょっとクールな女の子。主人公は、少しもお父さんのことを好きではありませんでした。そんな主人公が夏休み、お父さんにユウカイされました。お父さんと二人、ちょっと変わった2週間のユウカイ旅行。最後に、主人公が「私はあそこに立っている、いつまでもばかみたいに手をふり続けている男の人が大好きだと思った。」こう言えるようになるには何があったのでしょうか？

同じように、お父さん・お母さん、「家族」というものを見つめさせてくれる一冊に『日曜日の夕刊』（毎日新聞社 重松清）があります。12の「家族」が書かれた短編小説なので、読書がちょっと苦手な人にも読みやすいかもしれません。この中の“サマーキャンプへようこそ”は、お父さんと自分を見つめる男の子の話です。不器用かもしれないけれど、お互いを愛し、大切に思う思いが伝わってきます。

いつも、そばにいてくれる家族。その家族と離れなければならなくなったら、あなたは どうしますか？

この本『佐賀のがばいばあちゃん』(徳間書店 島田洋七)は、広島  
母のもとを離れなければならず、一人佐賀の祖母へ預けられた主人公昭広  
の貧乏でも明るい生活を描いた作品です。このお話は、映画にもなったの  
で、知っている人もいるかもしれませんね。この本の中のエピソードで、  
運動会のお弁当のことが書いてあります。お母さんは広島から運動会を見  
に来ることができません。貧乏で寂しいお弁当の昭広のため、毎年、先生  
が腹痛と偽り、弁当を交換してあげるというお話です。そのことを聞いた  
おばあちゃんが言った言葉。「それが本当の優しさ。昭広のために弁  
当持ってきたって言ったら、お前もばあちゃんも気いつかうやろ？だから  
先生は、お腹が痛いから交換しようって言ったとよ。」「本当の優しさとは、  
他人に気づかれずにやること。」おばあちゃんの言葉から、そして、生き  
方から、昭広は自分の意志で生きること学んでいきます。

もう一冊、おばあちゃんから大切なものを学んだという本です。

『西の魔女が死んだ』(新潮社 梨木香歩)この話は、学校に行けな  
くなった主人公まいが、ちょっと魔女の力のある？祖母からたくさんのこと  
を学び、強くなっていく話です。「...悪魔を防ぐためにも、魔女になるた  
めにも、いちばん大切なのは、意志の力。自分で決める力。自分で決めた  
ことをやり遂げる力です。その力が強くなれば、悪魔もそう簡単にはとり  
つきませんよ。まいは、そんな簡単なことっていいですけど、そういう  
簡単なことがまいにとってはいちばん難しいことではないかしら」「まい  
にとっていちばん価値のあるもの、欲しいものは、いちばん難しい試練を  
乗り越えないと得られないものかもしれませんよ。...」という言葉には、  
何か壁にぶつかったときに、それを乗り越える方法を教えてくれるような  
一冊です。

そして、最後にもう一冊、紹介します。『ちいさな天使とデんジャラス・  
パイ』(主婦の友社 ジョーダン・ソーネンブリック)です。白血病にな  
った弟のために、家族のために自分ができることを考え、行動するスティ  
ーブン。「変えられないことを思って苦しむより、変えられることを見つ  
けて行動を起こしてみたらどうかしら？」という言葉に勇気づけられる一  
冊です。

あなたは、昨日、家族とどんな話をしましたか？

(あなたは、最近、家族と一緒に過ごしましたか？)

これで、「家族」についてのブックトークを終わります。

対象

中学校（3年生） 総合的な学習の時間 テーマ「いのち」 100分

ねらい

「いのち」をテーマにして書かれた本を読み、読んだ感想を交流することを通して、いのちについて様々な見方があることを知り、いのちのかけがえのなさについて考えを深めることができる。

作品名

- ・「葉っぱのフレディ -いのちの旅」(レオ・パスカーリア 童話屋)
- ・「わたしのいもうと」(松谷 みよ子 偕成社)
- ・「龍平の未来 エイズと闘う19歳」(広河 隆一 著・写真 川田 悦子 著 講談社)
- ・「夏の庭」(湯本 香樹実 新潮文庫)
- ・「ひめゆりの少女 十六歳の戦場」(宮城 喜久子 高文研)

学習活動

活動の流れ	留意点
<p>1 「いのち」についての新聞記事について感想を交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・とても辛いことがあったのだろうと思う。自分も悪口を言われるととても嫌な気持ちになる。命を自ら断つなんてしてはいけないと思うけど、自殺する人の気持ちが全く分からないわけじゃない。</li> </ul> <p>2 課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>本を読み、いのちの大切さについて改めて考えを深めよう。</p> </div> <p>3 読む本を選んで読書をし、考えたことを文章にまとめる。</p> <p>4 同じ本を選んだ生徒でグループを作り、考えたことを伝え合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「葉っぱのフレディ」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「いつかは死ぬさ。でも“いのち”は永遠に生きているのだよ。」という言葉が印象に残っている。いのちは自分だけの命ではないような気がした。</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「わたしのいもうと」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・もし自分の身近な人がこんなめにあっていたらと思うといたたまれなくなる。ある人を苦しめるということは、その人を支えている人たちすべてを苦しめることなんだと思った。</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「龍平の未来 エイズと闘う19歳」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・エイズとなった苦しみを乗り越え、実名を出してまで薬害エイズと闘う勇気がすごいと思った。自分だけでなく他の人の命も考えたからこそできたことだと思う。</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「夏の庭」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人とかかわりが死にそうだったおじいさんに生きるエネルギーを与えたのだ。実際、自分も苦しいときに仲間にそばにいてもらえただけで助かったことがあった。</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「ひめゆりの少女 十六歳の戦場」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の周りの人の命が奪われていくのに、何もできない心の痛みがひしひしと伝わってきた。こんなに簡単に命が奪われていく状況は二度とあってはいけないと思う。</li> </ul> </div> <p>5 いのちの大切さについて深まった考えを全体で発表する。</p> <p>6 いのちの大切さについて深まった考えをまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>自分も時々、自分が嫌になり、もういなくなってしまうなどと思うことがある。自分の命や生きていることにも何らかの意味が必ずあること、そして周りの人の思いなどを考えると、そんなふうには思っていない。また自分と同じように大切な「命」を生きている仲間、親など身近な人からまず大切にしたいと思った。「死」も怖いものとか、いい加減に選んでいいものではなくて、精一杯生きることがいい終わりを迎えることのような気がした。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意見交流を通して、課題を生み出す。</li> <li>・本を読み、考えたことを文章にして交流し、深まった考えを最終的にまとめるという学習の流れを確認する。</li> <li>・生徒に一人一冊本が渡るようにある程度本をそろえておく。</li> <li>・本を選んで読書するまでを第1時で行う。第2時まで本を読んでもらうようにする。</li> <li>・前時までにどの本を選んだのが把握し、同じ本を選んだ4、5人のグループを作っておく。</li> <li>・課題について考えを深めるといふ話し合いの目的を確認する。</li> <li>・仲間の考えとの相違点を明らかにして話すようにし、質問や意見を積極的に行うように助言する。</li> <li>・事前に司会者の指導をしておき、話題に沿った話し合いができるようにする。</li> <li>・本のあらすじを紹介してから発表するようにする。</li> <li>・今までのいのちに対する考え方と比べてまとめを書くように助言する。</li> <li>・いのちをテーマにした他の本を紹介し、読書への意欲につなげる。</li> </ul>